

午後試験

問 1

問 1 では、食品スーパーにおける経営見直しを例にとり、マーケティング戦略の立案に伴う分析手法や意思決定のプロセスについて出題した。全体として、正答率は低かった。

設問 1 の(2)は、問題文中の“B 社の企業体力を考慮して”という記述から、B 社の経営資源全体の観点からの解答を求めていたが、個々の経営資源や競合他社との比較について記述した解答が目立った。

設問 2 の b と c は、正答率が低かった。マーケティング戦略立案において頻出する用語なので、是非理解しておいてもらいたい。

設問 4 は、問題文中に記述されていない事柄を推測した解答が散見された。この設問では、B 社の店舗コンセプトが“豊かな食の提供”であることに留意すれば、正答を導けるはずである。

問 2

問 2 では、探索アルゴリズムであるハッシュ法の一つ、チェイン法を題材に、リンクリストの配列を用いたアルゴリズムについて出題した。全体として、正答率は低かった。

設問 3 のエは、3 番目の引数を間違えた解答が多かった。問題文中にあるアルゴリズムの処理手順に示されている、“リストの先頭にノードを追加して”を実装するためには、どのようなノードを生成しなければならないのか、よく考えて正答を導いてもらいたい。

設問 4 の(2)は、計算量を O 記法で答えていない解答が目立った。 O 記法の基本的な考え方や記述方法などは理解しておいてもらいたい。

問 3

問 3 では、製造業を例にとり、SWOT 分析を用いた事業戦略立案について出題した。全体として、正答率は高かった。

設問 1 は、(2)a を除き、正答率が高かった。SWOT 分析の手法については、おおむね理解されているようであった。

設問 4 は、正答率が低かった。全社的な情報共有とは直接関係ないメリットを記述している解答が目立った。解答に当たっては、全社的な情報共有によって実現される、それぞれの戦略上のメリットを J 社の状況をふまえて具体的に記述してもらいたい。

問 4

問 4 では、オンラインシステムの災害復旧対策について出題した。全体として、正答率は高かった。

設問 1 は、正答率が高かった。RTO、RPO などの復旧目標の考え方は、おおむね理解されているようであった。

設問 2 の B は、正答率が低かった。トランザクション処理のデータ更新処理における同期、非同期の各コピー方式について、システム全体の性能に対する影響を理解し、評価してもらいたい。

設問 3 の“レベル 1”は、正答率が低かった。各 RPO のレベルを達成するために必要なバックアップセンタでのデータの状態と、それを実現できるコピー方式の選択ができるよう、理解を深めてもらいたい。

問 5

問 5 では、企業内のネットワークを効率的に運営する観点で必要性の高い DHCP について出題した。全体として、正答率は高かった。

設問 1, 2 は、正答率が高かった。DHCP の基本動作、基本機能については、おおむね理解されているようであった。

設問 3 は、正答率が低かった。“192.168.10.66 ~ 192.168.10.114”という誤った解答が散見された。登録する IP アドレスが、“192.168.10.66”から 48 番目までの範囲の連続する IP アドレスであることに注意すれば、正答を導けるはずである。

設問 4 は、正答率が低かった。IP アドレスが 2 分割されて 2 台の DHCP サーバに登録されているので、一方の DHCP サーバに故障が発生すると、提供可能な IP アドレス数が半減してしまうということを考え、どのようなときにどのような問題が生じるかを問題文中の記述から読み取ってほしい。

問 6

問 6 では、注文管理システムを題材に、既存システムへ機能追加を行う際に求められる、データモデリング及び SQL 文について出題した。全体として正答率は低かったが、設問によってばらつきが見られた。

設問 1 は、全体として正答率は高かったが、外部キーを示す下線を忘れた解答や、エンティティ間の関連を凡例に倣って書いていない解答が目立った。設問の指示に従い、ミスのない解答を書くように注意してもらいたい。

設問 2 は、正答率が低かった。d は SUM が付いていない解答が目立った。出荷指示の機能概要に記述されている要件を満たすには、どのような処理が必要かをよく考えてもらいたい。

設問 3 の“場合”は、正答率が低かった。商品エンティティと新商品モデルエンティティとの関連から、旧商品と新商品との関連が多対多であることが分かる。この点をよく考え、正答を導いてもらいたい。

問 7

問 7 では、クロック停止による携帯端末の省電力制御の効果と制御方法について出題した。全体として、正答率は低かった。

設問 2 の e は、正答率が低かった。この計算は、電池での運用可能時間を計算するとき使用するものであり、単純な計算間違いをしないよう、落ち着いて計算してほしい。

設問 3 は、正答率が低かった。(1)の誤った解答の多くは、優先度設定を間違っていた。クロック制御タスクの優先度がほかより高いとクロック制御タスク実行中は、ほかのタスクが実行できなくなるので、最低の優先度としなければならない。リアルタイム OS の特性を十分に理解し、タスクの特性を考慮するよう心掛けてほしい。

問 8

問 8 では、通信販売用 Web サイトを題材として、UML を用いたオブジェクト指向設計について出題した。全体として、正答率は低かった。

設問 1 の d は正答率が高かったが、e は低かった。抽象クラスや仮想関数を用いたオブジェクト指向設計では、どのクラスのインスタンスを生成し、生成したインスタンスを何のクラスとして取り扱うかが重要である。抽象化についてだけでなく、オブジェクトの生成とその取扱いについても、意識するようになってもらいたい。

設問 2 の g では、“ショッピングカートの初期化”という誤った解答が散見された。注意深くアクティビティ図を読めば正答を導けるので、落ち着いて解答してもらいたい。

問 9

問 9 では、情報セキュリティポリシーに基づいたファイアウォールの設定を例にとり、ファイアウォールの詳細な機能や、リモートアクセスにおけるユーザ認証について出題した。全体として、正答率は低かった。

設問 2 の c と d は、正答率が低かった。動的パケットフィルタリングの仕組みが十分理解できていないためと見られ、この仕組みをしっかりと学習してもらいたい。

設問 3 の k は、正答率が低かった。RADIUS サーバは、リモートアクセスにおけるユーザ認証システムとして広く利用されており、その基本的な機能については十分理解しておいてもらいたい。

問 10

問 10 では、営業支援システム開発プロジェクトを例にとり、プロジェクトの計画と管理について出題した。全体として、正答率は高かった。

設問 2 の(2)や設問 4 は、正答率が高かった。プロジェクトにおける品質管理やスケジュール管理の基本については、おおむね理解されているようであった。

設問 3 は、正答率が低かった。下線の内容を再度書いている解答が散見されたが、問題文を注意深く読めば正答を導けるはずである。

システム開発プロジェクトにおいて、品質、コスト、納期が重要な要素であることを、是非理解しておいてもらいたい。

問 11

問 11 では、企業のアウトソーシング利用を題材に、SLA の策定、評価について出題した。全体として、正答率は低かった。

設問 1 は、正答率が低かった。SLA を締結することによって、顧客とサービス提供者が、それぞれどのようなメリットを享受できるかを理解しておいてもらいたい。

設問 2 の(2)は、正答率が低かった。顧客とサービス提供者との間で明らかにすべき免責事項の条件を、具体的に考えていけば、正答を導けるはずである。

問 12

問 12 では、DB 監査ツールの導入を例にとり、システム監査の実施について出題した。全体として正答率は高く、監査手順、監査実施に対する今回の問いの内容について、おおむね理解されているようであった。

設問 1 の“独立性”は、正答率が低かった。監査担当者は、監査対象から独立し、中立公正な立場から点検、評価する必要があることを理解しておいてもらいたい。

設問 3 の(2)では、問題文中での情報取得方式に着目し、この方式では本番環境 LAN 経由で送られてくるパケットを監視しアクセス情報を記録しているので、運用管理 LAN 経由のアクセス情報は取得できないことを考えていけば、正答を導けるはずである。